会　議　録

会議の名称	令和４年度第２回富士見市社会教育委員会議
開催日時	令和４年６月６日（月）午後７時００分～８時００分
開催場所	中央図書館　視聴覚ホール
出　席　者	古澤立巳議長、佐々木眞理子副議長、荒川照子委員、京谷恵子委員、吉田徹子委員、渡邉知広委員、吉田和江委員、内海幸一郎委員、冨士伸委員、事務局
欠　席　者	蘇武伸吾委員
公開・非公開	公開（傍聴人　０人）
会議次第	１　議長あいさつ ２　協議事項 ３　その他
会議資料	・定期刊行物 ・資料１「提言書のながれの確認」 ・資料２「提言書（案）」
会議録確認	古澤立巳議長

会議内容
1　議長あいさつ 【議　長】　先月、入間地区社会教育協議会の総会が開催された。今年度の重点目標が「学校・家庭・地域社会の連携と推進」と「青少年健全育成と家庭教育支援にかかわる社会教育の推進」、この二つを柱として事業が進められていくとのこと。入間地区社会教育協議会の会議内容等については、今後もこの会議の場で共有していく。 2　協議事項 【議　長】　テーマを「世代をこえたつながりづくり」に決定した。今回の会議では、例えば世代間の隔たりなどについて、各委員がご自身の活動をされる際に感じたことや気づいたことを具体例としてお示しいただきたい。また、そういった隔たりを克服する仕組みづくりのような実践例があれば、共有していただきたい。では、事務局から配布資料の説明を。 【事務局】　資料に基づき説明。 【議　長】　資料２「提言書（案）」を確認しながら進めていく。部分ごとに確認いただきながら、各委員の意見を伺う。まずは「２　問題の所在」の部分から。 【委　員】　「１　はじめに」は必要なのか。「２　問題の所在」と内容が重複すると思うので、なくてもよいのでは。 【議　長】　どちらも現状の確認にあたる部分。確かに内容が重なるので、ここは「１はじめに」を削除してもよいと考える。 【委　員】　２の部分では２つの問題が挙げられている。「担い手の固定化・高齢化」という問題と、「つながりの希薄化」という問題。私たちはどちらに焦点を当てたいのか、明確化する必要があると考える。これまでの会議で世代間の隔たりについて考えてきた中で、ある特定の世代層がいない、という問題を論じてきた。持続可能ということだけを考えるのであれば、特定の世代層がいなくても、社会教育活動に参加してくれる世代層がとりあえずいればよい話。幅広い世代を巻き込んでいきたいのか、特定の世代だけでもよいので担い手を補充していけるようなシステムを確立していきたいのか、どちらが主の問題点か、今一度整理したほうがよいのではないかと考える。 【委　員】　組織を継続させたい、担い手を確保したい、というのもあるが、主軸はそこではなくて、色々な世代の方が一緒になって活動することで、今までなかった考えが出てくるというようなことが期待できる。活動の担い手が高齢化したことが問題なのではなくて、上の世代の方も、下の世代の方も、一緒になって活動できる場がなくなっている、ということが問題なのではないかと考える。 【議　長】　問題の所在について、整理し焦点化していこう、との指摘があった。ここについては改めて整理し、次回の会議でまた確認したい。では次に「３富士見市の生涯学習」の部分について、確認したい。ここは富士見市の

現状について述べている部分になると思う。

【事務局】　ご指摘の通りである。しかし「２　問題の所在」を整理し直すことに合わせて、３の部分も修正が必要である。

【委　員】　私の職場は若い世代の人が多く、意識の違いは大きいと感じる。以前は、一つの流行りがあると、みんながそちらに動いていたが、今は細分化されている。私たちの年代層がこうした方がよいのでは、と考えても、違う年代層は、このままでもよいのでは、と考えている。チームとしてまとめるのが難しい。思考が異なる年代層をまとめることが重要。若い年代層の人は、自分が興味のないことに関しては本当に無関心。つながっていくなにかきっかけがあると良いのではないだろうか。

【委　員】　世代によって価値観は異なるので、ひとつにまとめるのは難しい。

【議　長】　若い世代との間に考え方の相違があることについて、先行する世代がマネジメントしていくのがよいのか。そうではなく、若い世代に託して、若い世代の方のやり方で進めていってもらうのがよいのか。先行する世代がイニシアティブをとろうとしてしまうと、若い世代の方がついてきてくれればよいが、離れていってしまうとまたそこで世代間の乖離が起こってしまう。若い世代にすべて任してしまおう、となると、では先行する世代がやってきたことは何だったのか、疑問が生まれてしまう。どのような形でバランスを取っていけばよいのか。

【事務局】　以前の会議で委員からご指摘があったが、やらなくてはいけない、という義務が生じるようなものだと離れていってしまう。強制されず、ご自身の都合に合わせて、できる時にやれることをやる、程度の活動であれば、参加してくれる人がいるのではないか。そのためには、その活動についていかに知ってもらうか、参加を強制されるのではなく、楽しめる活動だという事をいかに知ってもらうか、ということが重要になるという話が以前の会議で出ていた。そういった体制づくりが、「６　具体的な取組の提案」で展開していけると良いのではないか。

【委　員】　以前、孫と一緒に博物館に行った。展示内容には全く興味がなかったが、孫たちが一緒に見たいと連れ出してくれた。しかし見ているうちに、興味がわき、展示を楽しむことができた。興味は世代間で全く異なるが、お互いに認め合うことが歩み寄りなのだと感じた。孫たちは、展示内容について知識のない私を馬鹿にすることなく、「楽しめた？」と気遣ってくれた。知識のない私をそのまま受け入れてくれた。あまり興味のない展示内容だったが、興味がないからと切り捨てず、孫たちも知識のない私を切り捨てず、お互いに認め合うことで、とても充実した一日を過ごすことができた。世代間で趣味嗜好に違いはあるが、ちょっとしたことでもお互いに興味を持つことが歩み寄りなのだと思う。

【委　員】　子育てしている間は、自分の子どもを育てることに必死だった。子育てが落ち着いてから、役員などをやっていたこともあり、地域の人とかかわりがあったので、地域の活動に対しても比較的スムーズに入っていくことができた。また、自分の母親が高齢化した時に、母親が住んでいる地域の人にお世話になっているという話を聞き、自分の周りにいる、一人で生活されている高齢者の方と接する機会につながった。社会教育と

は、自分が必要だと感じるそれぞれの年代の時に、情報が入ってくることが、一番良いのではないかと思う。ただ、やはり知らないと、困っていてもどうしていいのか分からない。私が子ども教室をやっていた時に、年々低学年保護者会の時間が短縮されていった。保護者の方達は、せっかく仕事を休んだのに、保護者会が１５分で終わってしまったといって子どもを迎えに来る。連絡事項だけ話すのではなく、時間があるのであれば、保護者会の中で地域の活動などについて紹介してくれても良いのではないかと感じた。私が子ども教室を休止した時に、地域の方達はなんとか続けられないか、という考えだった。しかし、現役の保護者の方達に、「今の保護者は、子ども教室は必要ありませんよ」と言われてしまった。私たちの世代が子どものために必要だと思ったことを、上の世代の方達と協力して立ち上げ、活動してきたが、２０年近く経ち、保護者の働き方や考え方も変わった。そういう状況なのであれば、子ども教室を立ち上げた時の役員の方達も、一回休止しようという考えになった。こういった会議も、リモートが普及した今、若い世代の方に、こういったことを話し合っているということが伝わるように、機会を作っても良いのではないだろうか。

【委　員】　委員から、勤務先でのご様子についてお話があった。世代間の意識のズレに課題を感じていらっしゃるとのことだったが、その課題を解決することで、どういう姿になることを期待されているのか、伺いたい。

【委　員】　役割を与えること、コミュニケーションをとること。チームの強化が一番だと考えている。

【委　員】　他の委員のお話の中にもあったが、多様な価値観を、こういう考え方もあるのだと受け入れることによって、個人個人の見方も広がり、組織としても良い関係でのつながりが生まれ、全体として強化する、ということか。

【委　員】　ここまで来てほしい、ここまで出来てほしい、という期待があっても、興味が無かったり、価値観が違ったりすることによって、目指そうとしない人もいる。お金、技術、休暇、求めているものが異なるので、そこを把握してから、どう動かすか、ということを考える必要がある。売上を目標に掲げても、それだけでは動かない人も出てきている。リーダーになりたい人はリーダーという役割を、そうでない人には他の役割を与えることで、組織作りをしている。

【委　員】　会社という組織だけでなく、地域活動においても通じる部分があるのではないだろうか。

【議　長】　人と人との間につながりを形成することについて、各委員の経験などに基づく話が出た。

【事務局】　事務局から委員に伺いたい。つながりを作ることによって生まれるメリットはなにか、というお話が出た。たとえば学校教育の中でも、異学年と交流する機会を設けることがあると思う。大人と子どもで、全く同じに考えることはできないと思うが、参考として、学校教育において、異学年との交流機会を設けることの目的はどこにあるのか、お教えいただきたい。

【委　員】	大きなところで言うと、豊かな心の育成。細かいところで言うと、人間関係能力を育成することや、問題解決能力を育成することを目的としている。小さい子どもにしてみると、楽しさや安心感があるから、年上のお兄さん、お姉さんについていく。上の子どもにしてみると、自分自身が辿ってきた道を振り返ることができ、学び直しをすることができる。それは、その子の自信を深め、次なる課題を乗り越えていく力につながる。双方にとって利点がある。子どもの異学年交流、異世代間交流は、大人のものとは全く別物であると考える。中学校１年生の子に、地域への関心を問うと、８割程度の子が、関心があると答える。それは小学生の時に、地域の方に構ってもらってきたから。ところが、中学校３年生になると、４割程度になる。これは教育の問題ではなくて、子どもを取り巻く環境の違いによるもの。小学生と中学生では、置かれている環境が大きく異なる。中学生になると、自分で考え行動すること、自分自身で判断することが求められる。例えば部活動は自主的な活動。みんなで一つの目標を立て、練習メニューを考え、そこに一所懸命取り組むことで、充実感を得る。子どもはそこに絶対的な価値を求めていくので、それ以外の事をやろうと思っても、部活動があったり、学業があったりと、時間が足りない。成長するにつれて大人の力を必要としなくなってきている中で、また、より魅力的で充実した学校の友人というグループがある中で、地域との関わりというのは、優先順位はどうしても下がってしまう。そうなると興味関心はどうしても下がってしまうもの。何かに夢中になる時間を持つという事は、人生においてとても価値あることであり、その時間は確保してあげたい。そうなると、教育の中で地域とのつながりを維持してあげること、地域に目を向けさせるということは、限界があるように感じる。保護者についても、子どもが小学生の内は比較的協力的で、子どもと一緒に活動に参加することで、地域との交流が生まれる。ところが中学生になると、親も子どもが大きくなるにつれて、働き方の変化など、様々な事情が発生してくる。小学校と同じような、保護者の方に参加していただき、そこに地域の方にも協力いただき、というスタイルを取り入れることは難しい。私は、人がつながる時には、共通した目的意識や課題認識など、どれだけ小さくてもあった方が、きっかけとしては良いと感じている。小学校、中学校という教育の場では、「子ども」が大きな共通項。学校関係者の立場から見ると、そこをどう工夫して一つのコミュニティを作っていくのか、という点が課題になってくると考える。「楽しかった」と思えることが少しでもあれば、「また参加したい」と考えてくれる人もいるのでは。全員に地域とのかかわりを持つことを期待するのは難しい。しかし一方で、地域の方と過ごす時間に価値を感じる子もいるので、地域の方にそういう時間を作っていただいて、中学生になっても高校生になっても参加してもらえるような環境を作ることができれば。そういう子を拾い上げていくことが重要なのではないか。
【委　員】	小学生の時に地域と関わる機会を設けることで、地域活動に参加するという素地は育むことができると思う。そういう素地のある子は、ある程

度大きくなっても地域のイベントなど、楽しんで参加してくれるのではないだろうか。

【委　員】　例えば地区体育祭など、半ば強引に子どもを連れてきても、子どもは楽しさを見出すことができる。各種イベントなど、受け入れの場を地域と協力して作ることができれば、長い目で見れば、そういう素地のある子を育てていくことはできるのかもしれない。

【委　員】　私が関わっている子ども食堂の話で、お父さんが参加したいと言っていらっしゃったことがある。それからご都合のつく時に時々いらして、実に楽しそうに活動していらっしゃる。ずっとやりたいと思っていたが、どこでどうすればいいか分からなかったそうで、市役所の方に問合わせてくださり、私たちの方にご連絡をいただいた。その方のお子さんは、当たり前のように一緒に来て、手伝ってくれる。私たちがその子のために何かをしてあげているわけではなくて、一緒にその場にいると、一緒になってそこで何かをしている。子どもは親に連れられてくるだけでも、ひとりでに育っている。しかし、大人になるとなかなか難しい。組織を継続するためにではなく、一人ひとりが他者とつながることで豊かになることができる。組織のためではなく、人がつながっていく中で、続く組織は続いていく。他者とつながることによって得られる気づきであるとか、楽しさがあるということを学べば、自然とうまくいくのでは。しかしそのチャンス、機会がなかなかないのではないだろうか。子ども食堂に参加してくれた方のように、一歩踏み出せる方ばかりではない。講座を開催する、声をかける、それだけでは不十分で、みんなで一緒にやると楽しいね、という気持ちをもってもらうこと、気付いてもらえるようにすることが、重要なのではないか。

【議　長】　委員のご指摘のとおりだとは思う。しかし実際に活動している立場からすると、先々の事を考えてしまう。次の世代につなげることへの不安感がある。

【事務局】　社会教育関係団体と関わる中で、多くの団体から担い手確保に対する不安、課題を伺っている。課題としては確かに存在するが、今回の提言書については、委員のご指摘の通り、軸がぶれてしまうため、次回までに軌道を修正する。

【議　長】　今日、各委員から出された意見を整理し、再度次回の会議で方向性を確認したい。また、「提言書（案)」の「３　富士見市の生涯学習」の最後で、「学びから得た成果を個人に留めることなく、社会に還元していくことが必要」とした。また「４　問題の再考」の最後では「他者とのつながりを形成し、互いに影響しあえる関係を作る必要」があると言い切った。なぜ、必要なのか。今回の会議でも答えにつながる話が各委員から出されたと思うが、今一度整理して、ここを丁寧に論じていきたい。各委員もこの部分について、改めて整理してきていただければ。

３　その他

次回会議日程

令和４年度第３回会議

日程：令和４年８月２９日（月）午後７時～

場所：中央図書館　視聴覚ホール